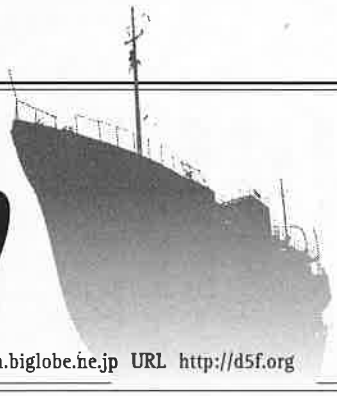


都立 第五福竜丸展示館ニュース

2007.10.01
No.340
(10・11月合併号)

福竜丸だより

発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内
Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



写真右・手紙の展示に見入る来館の生徒たち／左・手紙展のポスター

手紙

2007年 9月 23日(日)
～ 12月 23日(日)

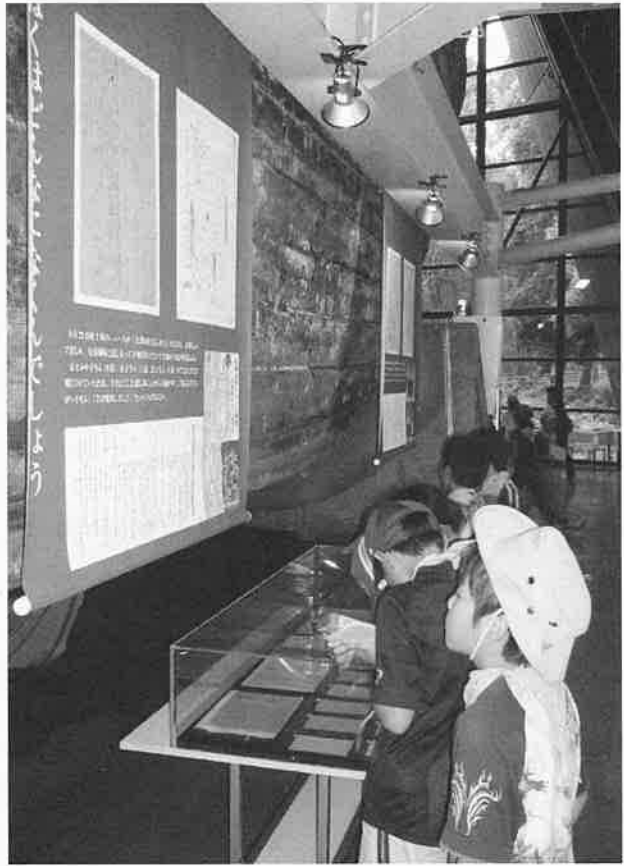
午前9時30分～午後4時
月曜休館 (月曜休館の日も入館無料)

入館無料

子どもたちが見たビキニ事件

都立第五福竜丸展示館
(江東区・夢の島公園内)

財団法人第五福竜丸平和協会
〒136-0081 東京都江東区夢の島3-2
TEL.03-3521-8494
http://d5f.org
東京都立総合教育センター
第五福竜丸ボランティアの会



特集 企画展

手紙 子どもたちが見たビキニ事件

会期 九月二十三日～十二月二十三日

展示館で今年度二回目の企画展として「手紙 子どもたちが見たビキニ事件」(略称・手紙展)が九月二十三日より開かれています。今号は手紙展について特集します。

*

五三年前、見ず知らずの一人のおとな——久保山愛吉さんが「死の灰」に苦しみ、多くの人に見守られる中で息をひきとつたとき、全国の子どもたちは嘆き、くやしがり、残された遺児たちのさびしさに思いを馳せて涙しました。

そして、二度とこんな恐ろしい核実験はやめてほしい、ほくたちがおとなになったら平和な世の中になりますと誓いました。

やがて日米両政府によって事件解決の政治的合意がなされると、身近なおとなたちの間でささやかれた、「死の灰をあびて、お金をもらった」「うちのお父ちゃんも福竜丸に乗っていりゃよかった」と

いう声が聞こえてきます。

子どもたちは「いままであんなに同情していたのに、なぜだろう」という疑問を率直に言葉にします。また、もう二度と戦争はしないと決めたのに、どうして戦争の準備をするのだろう、なぜ政治家は核実験を支持するのだろう、ととまどい憤りました。

戦争が終わって九年目。疲弊した国内に再び活況と戦争の影が同時にやってきた時期に、日本中を震撼させた「ビキニ事件」は、子どもたちが世界の情勢や社会の矛盾に目をむけるきっかけにもなっていました。

久保山さんの「原水爆の被害者は、わたしを最後に……」の願いは果たされないうまま五三年。あの頃の小中学生は、今の社会をどのように見ているでしょう。久保山愛吉無線長とその家族に届けられた手紙とおして、ともに考えたいと思います。

「手紙」展解説 展示の概要

第五福竜丸平和協会は、ビキニ事件当時に書かれた手紙三〇〇〇余通を所蔵しています。これらは第五福竜丸保存運動のさなか、一九七三年九月二三日、焼津市で行われた久保山愛吉氏追悼会で、妻はずさんより協会に寄贈されたものです。

手紙類は、これまでに大まかに分類され、協会発行の出版物に一部を収録しています。二〇〇一年から三年半をかけてボランティアスタッフにより本格的な整理がおこなわれました。三〇〇〇通のうち小学生から七〇〇通、中学生から八〇〇通、おとなからの一五〇〇通には用文や海外からの手紙などもありました。

今回で三回目となる手紙の特別展示は、半数を占める子どもたちからの手紙六〇通余の現物と、拡大した手紙や解説などで構成したパネル（垂れ幕状の展示物）を展示。関連する作文、手記などはフ

イルに収納して座って読めるようにしています。また久保山さんの声と長女みや子さんがラジオ放送で読んだ作文を映像を加えて随時放映し、のべ一〇〇通の「子どもの言葉」が展示されています。

〈展示解説より〉

福竜丸のみなさんがんばつてくださ

水爆実験被災の報道以来、乗組員二三名の病状は東大病院美甘義夫病院長、国立東京第一病院栗山重信副院長の連名で記者発表された。新聞やラジオを通して子どもたちは家庭で、学校で「第五福竜丸のおじさんたち」について話し合い、お見舞の手紙をしたためた。

久保山さん 死なないで

八月三日、久保山愛吉さんの容態悪化が発表された。以後、新聞・ラジオは久保山さんの体温、脈拍、呼吸数、血圧を連日報じた。「容態さ

らに悪化」、「いよいよ危険状態」の報道が続くと、「死なないで」の手紙が寄せられ、九月四日頃から意識を回復したことなどが伝えられると、ホツとしたとの手紙が届けられた。

子どもたちをとりまく世界

一九五四年は災害の多い年だった。六月には水害で静岡、和歌山ほか西日本で死者傷者がでた。九月には台風が次々と発生し、九州、四国などを直撃。九月二六日の一五号台風は東北、北海道に甚大な被害をもたらした。「洞爺丸台風」と呼ばれた。六月に浅間山、一〇月に三原山が噴火。一月には房総沖地震が発生した。お見舞の手紙で、被害の被害に触れているものもある。また労働争議や教員への「教育二法」成立、造船疑獄など政治をめぐる問題も相次いだ。

これらを知るのは新聞とラジオ、学校などでの「口コミ」だった（特にラジオは全国で三九社五四局、一二二〇万七一五八世帯が聴

取「朝日年鑑」一九五五年版）。

この頃、家事手伝いや貧困から長期欠席する児童が多く、また農山村に住む児童の栄養不足などが教員たちを悩ませた。このような生活をみつめる「生活綴方」教育や、原爆の映画鑑賞などが学校で取り組まれた。子どもたちが手紙や作文を書く背景に、こうした状況が見てとれる。

ぼくはどんなになくなくでしよう

九月二三日夜七時のニュースが「久保山愛吉さん死去」を告げた。ラジオの前で家族じゅうで悲しみ、兄弟姉妹と話し合って書いたという手紙が何通もある。

長女みや子さん（九歳）、安子さん（七歳）、さよ子さん（四歳）のこともたびたび報じられていたため、父を亡くした姉妹の悲しみに心よせる文面が多い。「私もお父さんがいません」「父は戦死しました」という子どもも少なくない。

静岡県の小学三年生は「ぼくはみや子ちゃんと同じ三年

生です。ぼくのおとうさんが死んだらぼくはどんなになくなくでしようとおもいました。水そばくだんやげんしばくだんはわるいバクタンです」とハガキに書いた。

原水爆をなくしたい

第五福竜丸の被災、乗組員の放射線障害、原子マグロや放射能雨は、国民の中に大きな影響を及ぼした。各地で自発的に始まった原水爆実験禁止の署名は全国的に広がっていった。「私たちの手で原水爆をなくします」「平和な世界を作るのは私たちです」という決意の言葉にあふれる手紙も多い。

鳥取県の少女はみや子さんへ「私達はにくしみをなげつけずに平和への道の発見に努力するのが正しいのです」とよびかけ、「遠く離れていても私達は心だけはかたく結んで平和を守ろうではありませんか」と結んでいる。

*

本展の開催にあたり、(株)埼玉総合宣伝センター、第五福竜丸ボランティアの会の協力を得ました。

特別寄稿

子どもたちから
手紙をもらって

大石又七

太平洋に乗り出し、身を粉にして働いていたのです。

◆◆◆
夜明け前の洋上に、閃光とともに轟音がとどろき私たちが腰を抜かしました。

それは、広島型原爆の一〇〇〇倍という巨大な水爆で、その破壊力と、同時に作り出された放射能がすでに地球上を覆い尽くして汚染していました。この事実を世界中に知らせたのが第五福竜丸・ビキニ事件です。

まっ白な「死の灰」が福竜丸のデッキの上に舞い降り、核競争に明け暮れる者たちに向かつて「核兵器だけは作っ

てはいけません。持つてはいけない」と警告したのに、それを指導者たちは無視して握りつぶしました。

なぜか日本政府も、唯一の被爆国なのに核実験に賛成で、協力すると言ったのです。その結果どうなったでしょう。核兵器は世界中に拡散し、自分の足元である北朝鮮にまで及んできて、おびえて暮すようになってしまいました。

◆◆◆
被爆当時、ビキニ事件は第三の被爆と騒がれ、国民の三人に一人、三二〇〇万人が保守も革新もなく反対署名をしました。今では考えられない数字です。

◆◆◆
東大病院と、国立東京第一病院に分かれて入院した私たちのところには、連日のように、全国から送られてくる手紙や、大勢の見舞客で病室の外はごった返していました。特に子どもたち、近隣の小学校の生徒たちは先生に連れられ、病院前の広場にきて三階に入院していた私たちに顔を見せてと、寄せ書きなどを看護婦さんに渡して手をふっていました。届けられた手紙

には、少しでも元気な者が返事を書くようにしていました。

◆◆◆
受取った子どもたちは喜んで、また私たちの健康を気遣う返事がくる。こんなやり取りの時間が、発病の恐怖をやらわけてくれたように思います。

◆◆◆
そのときの生徒たちは、今どこで何をしているのだろうかと懐かしく思ったりしています。先生になって、今度は生徒を連れて私の話を聞きにきてくれた人もいました。

◆◆◆
しかし現実には、年々ビキニ事件は過去のできごととして人々の記憶から消えようとしています。

◆◆◆
ビキニ事件は決して過去の事件ではありません。解決もまだしていません。核問題はあの日から始まり、一層の恐怖を伴いながら現在に続いているのです。核兵器があるかぎり、ビキニ事件は終わりません。心して、私も命のつづく限り伝えつづけていくつもりです。(元第五福竜丸乗組員、ビキニ事件被爆者)

大石又七さんの
『ビキニ事件の
表と裏』に反響

大石さんの新著の紹介は、静岡新聞、中国新聞はじめ共同通信の配信により日経、日本海、信濃毎日、上毛、伊勢、秋田魁、長崎、東京などの各紙に掲載され展示館へも問合せが多く寄せられました。

◆◆◆
すでに大石さん自身とその活動に共感する方がた、マグロ塚の会員と展示館での普及のとりくみで八百冊余が広げられています。

◆◆◆
女優の吉永小百合さんは、本書の出版にあたり「大石さん、第五福竜丸の悲劇を語り続けて下さい。核兵器が廃絶される日まで」との言葉を寄せています。

◆◆◆
*
本書を読まれての感想など福竜丸だより編集部までお寄せ下さい。またお近くの図書館などに購入のリクエストをしてくださるようお願いいたします。



子どもたちの手紙 それは「平和の文化」

藤田 秀雄

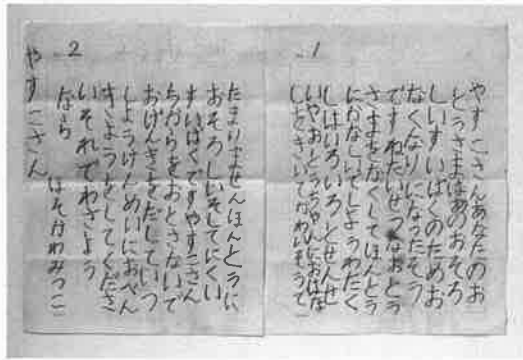
五三年前、ビキニでの水爆実験で被災し、半年後になくなった。久保山愛吉さんとその家族に送られた、子どもたちの手紙の一部が展示されている（一二月二三日まで）。

「くるしむおぢさんへ」
くぼやまさんのおぢさん、おからだがすこし良くなりまししたとのことからおよろこびもうし上げます。

わたしのおうちでは、いつも朝と夜は、ビキニのかたがたのため、とくにくぼやまさんのおぢさんのためにおいのりをしておりまして・・・。

でもまだお目があかずに、やすんでいられるとラジオがいます。わたしは、ラジオがにくくてにくくてたまりませんでした。きょうはじめてラジオがすこしからだが良くなりましたといいましたので、わたしはとんでよろこびました・・・。
(小2ひろこ)

ラジオでまい（え）に『くぼやまさんはなあってきた』といっています。きょうになってとつぜんしんだのでぼくはかなしくおもいました。ぼくはみやこちゃんとおなじ三年生です。ぼくのおとうさんが死んだら、ぼくはどんなになくんでしようとおも



いました。水そばくだんやげんしばくだんはわるいバクダンです
(小3)

やさしさは平和の原点

こういう手紙を読んでいると、わたしは心から、子どもたちのやさしさを感じる。この頃、テレビはなかった。子どもたちは毎日よくラジオを聴き、新聞を読んでいる子どもも多かった。テレビを見ない分だけ、家族で語りあっていた。学校で、先生たちもビキニ事件について話し、久保山さんらの病状をつたえていた。クラス全員で、手紙を書いた学校もあった。

こういう状況のなかで、子どもたちは久保山さんや家族をおもいやった。このおもいやることが、やさしさであるとおもう。

やさしさは、アジア・太平洋戦争で被害をうけたすべての日本人、アジアの人たちをおもいやり、いま、戦争・貧困・差別等で苦しむ人たちをおもいやる時、平和の原点になると考える。

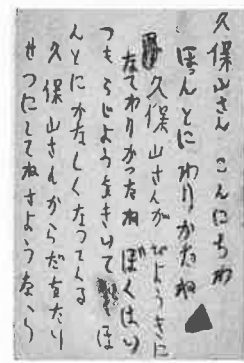
一九五四年頃とくらべれ

ば、いま、やさしさは減退しているように感ずる。それは、思いやりに欠かせないイメージン（想像力）の問題であろう。映像文化がそれを求めなくなり、競争原理がそれを拒否する。

しかし、子どもたちはもちろん、ほとんどのおとなたちも動機づけさえあれば、やさしさをとりもどす。なぜなら、自分たち自身がやさしさを求める（求める時がある）とおもうからである。

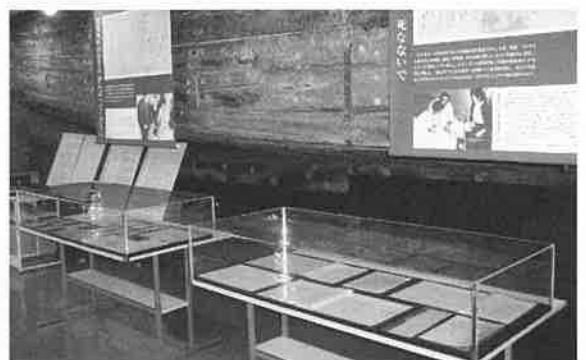
国連が求める「平和の文化」

国連は一九九九年に「平和の文化」宣言を総会で決議し、その国際一〇年（二〇〇一年—二〇一〇年）を翌年定めた。「平和の文化」とは、はば広い平和問題解決のための価値観、態度、行動、生き方である。平和に必要なのは、平和の



ための課題（非暴力、核兵器廃絶をふくむ全面的完全軍縮、貧困・差別をなくすこと等）を知るとともに、世界の人びとの課題にとり組む積極性と行動である。「平和の文化」は、とくにこの積極性と行動を求めている。

子どもたちが、久保山さんや、その家族の人たちをおもいやるだけでなく、手紙に書いて送るといふ、積極性と行動は、「平和の文化」の具現としてたたえたい。「平和の文化」をきざく会代表／第五福竜丸平和協会副会長



ビキニ事件、その時代

市田 真理

今年春から夏にかけて、例年以上に「戦争と平和」に向き合う映画が公開された。そのひとつ、佐々部清監督の『夕風の街桜の国』は、二〇〇四年に発表され話題となった、この時代のマンガが原作の作品だ。映画の冒頭でヒロインが「死んだはずだよ、お富さん」と歌うシーンがあり、私は「おお」と思わず声をあげてしまった。春日八郎の「お富さん」。ビキニ事件の年の大ヒット歌謡曲だ。

ラジオのある生活で

広島で被爆しバラックに住むヒロインと母が、ラジオの人気番組「明色歌謡ゲーム」のファンであることもさりげなく示される。ラジオが娯楽の中心であり、戦争の傷跡も癒えぬ時代、苦しみの日々をつきやぶるような明るいうらみと唄が、人々の心に沁み

いったにちがいない。この年の流行歌は美空ひばりの「ひばりのマドロス」や岡本敦郎の「高原列車は行く」であり、一方では戦争の影を引きずるような菊地幸子の「岸壁の母」だった。

戦争が終わって民放が倍増し、ラジオは一般家庭に急速に普及した。ラジオが家族の真中にあつた家庭は少なくな。子どもたちのアイドルは小鳩くるみ、鰐淵晴子、松島トモ子。少女歌手たちは歌い、少女雑誌の表紙を飾った。一方で、久保山さんの容態を連日伝えるラジオ。ある少女は、久保山さんの容態悪化を耳にして「私はラジオがにくくて、にくくてたまりませんでした」と綴る。意識が回復したと「ラジオがいったので」嬉しかったとも書いてい

水爆とゴジラ

中学生たちの手紙には「講和条約」「再軍備」といった言葉が、原水爆への憤りと共に綴られている。

講和条約以前にはプレスコードで規制されていたヒロシマ・ナガサキに関する情報がこの頃、映画『原爆の子』(五二年新藤兼人監督)『ひろしま』(五三年 関川秀雄監督)となつて子どもたちの目にも触れ始めていた。

手紙の中に、学校でこれらの作品を観たと書いてあるものがある。ニュース映画や調査船俊鵲丸の科学ドキュメント『死の灰』(五四年)を観たと書いている手紙もある。この年の人気作『二十四の瞳』『七人の侍』や『ローマの休日』『ダンボ』などを観た目に、これらの映像はどのような映つただろう。

この年に生まれた作品で、二一世紀までシリーズ化されたのが『ゴジラ』(本多猪四郎監督)。一月三日文化の日に封切られた「原子怪獣」の映画は、秋口からラジオの連続ドラマで宣伝するとい

れた。

実生活で「原子マグロ」「放射能雨」のパニックにさらされていさなかに、スクリーンで、核実験により太古の眠りをさまされた「ゴジラ」が、戦後九年の東京を放射能で焼き尽くすのだ。しかも迎え撃つのは、この年七月にアメリカの肝いりで再軍備の具現化として発足した自衛隊の全面協力による「地球防衛軍」である。子どもたちが現実と作品の中で混乱し、恐怖したことは想像にかたくない。

ゴジラの出現に脅える市民が「やあね、原子マグロだ放射能雨だ、そのうえ今度はゴジラときたわ」「せっかく長崎の原爆から命拾いしてきた大事な体なのよ」とつぶやくシーンがある。三たび核の犠牲となった日本人のメンタリティをみごとにあらわしている。ちなみにこの場面は、『怪獣王ゴジラ』(五六年)としてアメリカで公開の際にはカットされている。

戦争したいのは

おとなたち?

一方で造船疑獄など政府と

政治家への不信不満が沸騰していた時期。ゴジラの出現が報告される国会で、大臣が「国際関係が難しくなる」とポソと弱気な発言をすると、女性議員たちが「重大だからこそ公表すべきだ」「事実は堂々と発表しろ」と突っ込む。時代の気分が映し出される名場面だ。

『ゴジラ』をリアルタイムで観た、あの頃の子どもたちは、いまだんおとなになっているのだろうか。核をめぐる今の社会をどのようにみつめてい

「原子ばくだんなどを作っているのは、また戦争をしようとしているのだと思いません」(小学六年生)、「僕は満州から苦勞して戦争の中を通過してきました。だから戦争に使う道具だけは反対なのです」(中学三年生)。

手紙からわきあがるザラリとした肌触りから、「戦後」の復興と、戦争を準備するおとなたちへの不信の時代が見えてくる。

(第五福竜丸展示館学芸員)

「子どもたちが見たビ キニ事件」

—手紙の読み語り—

久保山忌の九月二三日、展示館では恒例となった「第五福竜丸で平和を語る集い」が市民有志によりおこなわれ、民話の語り、紙芝居、合唱、演奏などが繰り広げられたくさんの方々が聞き入っていました。この日から始まった手紙展の紹介をかねて展示の準備にあたった展示館のボランティアによる「久保山さんに寄せられた手紙の読み語り」が披露されました。そのシナリオを紹介します。

シナリオ

久保山さんに寄せられた手紙より

*臨時ニュースを申し上げます。

重症患者の一人、第五福竜丸無線長久保山愛吉さんが、今月二〇日頃から黄だんが悪化。八月二九日意識が混濁して重体におちいったと発表がありました。

八月三十一日、容態さらに悪化、九月一日依然昏睡続く、九月二日午後一時五〇分の容態は、体温三七・八度、脈拍一二八、呼吸二二。

〈中学生・片山千代〉

その後の御容態はますます悪くなるとのラジオや新聞などのニュースを聞いて、私達の不安はますます深まるばかりです。私たちの兄や父も同じ漁師で

す、原水爆のおそろしさというものがしみじみと感じさせられます、一刻も早くお元気になるよう影ながらおいのりいたします。

〈中学生・梅原和子〉

久保山さん

ラジオや新聞で久保山さんの病気を知り大変おきのだくに思います。病気に負けないように頑張ってください。

人を殺したり傷つけたりするおそろしい原子爆弾や水素爆弾を競争して造るおとのなの考えが、私どもには理解できません。武器の製造などはやめて一日も早く世界中が平和に楽しく生活するようになればよいと思います。

久保山さん早く全快して世界中の人々に水素爆弾のおそろしいことを教えてあげてください。

*九月四日久保山さん意識回復

午後二時発表。体温三七度、脈拍九〇。果汁、番茶を七〇〇C摂取。

九月五日午後九時四五分の容態は、血圧最高一三四、最低八二。意識障害はまだ残るも家族に笑顔を見せることもある。

九月六日六時四五分 血圧は正常となる。体温三六度 脈拍一〇二。

〈小学五年・あらいひろゆき〉

久保山さん

おからだのぐあいはどうですか。ラジオや新聞でみるとだんだんよくなっているようですね。早くお元気になってください。せんそうでもうごりごりしているのにまたすいばくでひどいめにあうなんて、

とてもくやしいです。

ほくがもし大きくなったら、戦争のない平和なよい国にしようと思います。りょうしの人たちのとってきた魚にほうしゃのうがなんカウントあるなどとラジオでよく聞いていました。ほうしゃのうのある魚は、また海へすてるそうです。日本はびんぼうな国なのにそんがいばかりしているの、いっそうくやしいです。そちらは12号台風で死んだ人やけがをした人はいませんか。

久保山さんもほかの人たちも早く元気になってまた魚をとってください。ほくは魚がとつてもすきです。

ではお体に気をつけて早く病気をなおしてくださいさようなら

〈小学六年・きたむらみつほ〉

久保山のおじさんお元気ですか

ラジオでおじさんのようだが良くなってきたというのをきいて大へん喜びました。

講義条約の結ばれた今の世の中に原子ばくだんなどどうしているのでしょうか？

魚に原子がはいっていたり、雨といっしょにふってきたり、又漁に出て死の灰をかぶって全身ヤケドをし、病気になるたりしているのに、ばくだんを作っている人はどんな人でしょう。おじさんも死の灰をかぶって病気になるたお気の毒な方です。

原子ばくだんなどを作っているのは、また戦争をしようとしているのだと思います。

楽しい平和な世界が原子ばくだんなどのような物を作っているとつまらない世の中になりはしないでしょうか？

(7めんにつづく)



「手紙」を朗読するボランティアの会のメンバー（写真・嬉野京子）

（6めんよりつづく）

おじさん早く良くなって元気になってください。おからだを大切にしてくださいね。では早く楽しい日本になるようお願いのりします。さようなら

*臨時発表（国立東京第一病院副院長 栗山重信

久保山愛吉氏は、一九五四年九月二三日午後六時五十六分逝去された。

〈小学三年〉

ラジオでまえに
「くぼやまさんはなおつてきた」
といっていました。きょうになってとつぜんし

んだのでぼくはかなしくおもいました。

ぼくはみやこちゃんと同じ三年生です。ぼくのおとうさんが死んだらぼくはどんなになくんでしようとおもいました。

すいそぼくだんやげんしばくだんはわるいバクダンです。

〈小学三年・やまもとしげこ〉

くぼやまみやこさんおげんきですか。わたしもげんきです。みやこさんおとうさんがおらなくなつてなんぼかさびしいでしょう。わたしもおとうちゃんか一日おらなんでもさびしいのです。それでもまけづ（ず）にいっしょうけんめいばんきょううましよう。そしてりつばないいひとになりましようね。さようなら

〈中学三年・みやざきあつこ〉

ラジオで久保山さんの死亡について、放送すると、その翌日から新聞に大きく取りあつかわれ、人々のうわさのもととなった。気のいい人は涙を流し、同情のことばにたえない。

私達は久保山さんにただ同情でよいのだろうか。

「かわいそうに」「むごそうに」。いちじは皆そう言うっていた。

死亡して、二、三日経った新聞に、政府より五百万円、アメリカから何万円などというすごい見舞金をもらった事が出ると、今まで同情していた人々は「死んでもあれだけお金をもらえば死んだほうがましよ」「久保山さんは、あれだけもらったけど、あとの人はあれだけもらえないだろうね。さきに死んだほうがましよ」などと言う。なぜだろう。久保山さん

はお金のために死んだのではない。水素ばくだんによりころされたのだ。それだにお金をもらったから、それでよいと考える人達がたくさんいる。それではあんまりだ。

人のうわさは七十五日とか言われるが、うわさばかりで、ただわすれるのではなく、水ばくのおそろしさというものをよく考え、それをやめさせるように、みんなが力をあわせていかなければならない。

*この手紙が書かれてから五三年

あの頃子どもだった人は、いまの社会をどのよう

にみつめているでしょう？
ときには、核兵器について考えることもきつとあ

ったと思います。
むかし、子どもだったすべての人に、これからおとなになっていく、すべての子どもたちに読んでほしい手紙を選びました。

（読み語り 中橋章子、竹井みよ子、構成・語り 市田真理）

第五福竜丸平和協会 賛助会員ご入会の お願い

第五福竜丸平和協会の活動を支えてくださる賛助会員をよびかけています。周りの方々をお誘いください。ニュースの見本、申込用紙などをお送りしますので事務局までご一報下さい。

電話 03-3521-8494

URL <http://d5f.org>

反核マラソン 展示館前をスタート



今年で12回目となる東京反核マラソン（新日本スポーツ連盟東京都連、東京ランニングクラブなど実行委）は、9月22日朝、展示館前をスタートし太田区役所までの25キロの行程でおこなわれました。

折から真夏に逆戻りしたような暑さでしたが、参加者75名は、核なくせ、憲法9条守れ、戦争反対などのゼッケンをつけアピール。スタートまでの間に館内を見学、第五福竜丸平和協会の安田事務局長が「明日は久保山忌、核兵器も戦争もない世界を願い保存された第五福竜丸の願いとともに力走を期待します」と激励しました。

久保山忌 たくさんの方の来館者

9月23日は第五福竜丸無線長の久保山愛吉さんの五三回目の命日にあたり、市民の有志や平和団体による行事が終日おこなわれました。この日の入場来者は1400人を超えました。

久保山忌句会は午前中に吟行、参加者が久保山記念碑にりんどうの花を献花し協会から川崎昭一郎会長が挨拶しました（午後からの句会については別途記事）。

平和を語る第五福竜丸の集いは、今年で15回目、80人が参加しました。午前10時30分から船体左舷のスペースでおこなわれ、望月新三郎さんの語

り「兵隊さんと子ども達」、川島保徳・原礼子さんの語り「おこりじぞう」、松平晃さんのトランペット演奏、松島よしおさんと仲間による「ベトナムの歌と音楽」をはじめ朗読、紙芝居、歌唱などが繰りひろげられました。第五福竜丸ボランティアの会は、手紙展の紹介と手紙の朗読をおこないました。集い代表の中村博さんから協会の川崎会長にカンパが手渡されました。

第五福竜丸のついで（東京原水協）は、50人の参加で午後1時から館内を見学、久保山碑に白菊の花を供えたあと夢の島マリナー会議室にて学習懇談会を開きました。見学会の冒頭に協会の川崎会長が挨拶しました。

マグロ塚を作る会は、40人が参加しお昼過ぎからマグロのお弁当を食べながら懇談。第五福竜丸乗組員の大石又七さんの挨拶・報告につづき会員が近況報告、懇談しました。

来館者の感想 船大工の技と仕事展など

◇私の地元古座で造船された第五福竜丸を初めて間近に見ました。昔の船大工の技術のすごさと共に被爆という悲しい運命を背負ってしまった悲痛な感

情にさいなまれました。原爆のない平和な世の中になることを、第五福竜丸は教えてくれている（和歌山・42歳男）。

◇貴重な証人である船をよく残してくれました。永く後世に原爆の恐ろしさを知って欲しい（広島・62歳男）。

◇政治的にはこの展示の考えとは相容れない立場だが、木造船の技術保存という点では貴重だ。製造修理の技術を伝承する必要がある（東京・47歳男）。

◇私の親が生まれた頃にあったことで今日初めて知りました。正直ショックで、子どもたちにも目で見て知る良い機会になりました（東京・30歳女）。

協会理事 猿橋勝子さん逝去

第五福竜丸平和協会理事で地球化学者、気象学者の猿橋勝子さんが9月29日に逝去されました。87歳でした。

ご冥福をお祈り申し上げます。

詳細は次号にてお知らせします。

久保山忌句会は、午後一時より東陽町の江東文化センターにて開催され、三〇人が参加、望月たけしさんの句が最高点を獲得し、第五福竜丸平和協会の山村茂雄理事から賞状（船員賞）記念品が贈られました。今年は、第五福竜丸建造の還暦を祝う句が群読により披露されました。



久保山忌句会より

柘榴は朱に遺言の彫り深くする

望月たけし